

令和7年度第6次瀬戸市総合計画評価委員会 議事録

日 時：令和8年3月16日（月）午後2時30分から午後4時30分まで

場 所：瀬戸市役所 北庁舎4階庁議室

出席者：石川 良文（南山大学総合政策学部 教授）

澤田 景子（名古屋学院大学現代社会学部 講師）

加藤 文弥（瀬戸市自治連合会 会長（效範連区自治協議会 会長））

河村 誠悟（瀬戸商工会議所 会頭）

稲垣 孝幸（瀬戸信用金庫 理事長）

南 慎太郎（ゲストハウスますきち オーナー）

林 ともみ（ラジオサンキュー パーソナリティー、瀬戸市障害者地域自立支援委員会 副委員長）

萱岡 愛（瀬戸市女性活躍推進及び男女共同参画審議会 委員）

小坂 英雄（行政書士、せと・しごと塾 塾長）

傍聴者：8名

議 題：1 あいさつ

2 第6次瀬戸市総合計画の計画期間における人口動態について

3 第6次瀬戸市総合計画及び第2期瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進行管理について

4 第6次瀬戸市総合計画の現時点における総括について

5 次期瀬戸市将来計画の策定状況について

6 その他

発言者	内 容
開会 1 あいさつ	
事務局	開催にあたりまして、瀬戸市長川本雅之より、ご挨拶をさせていただきます。市長、よろしくお願いします。
川本市長	<p>本日は大変お忙しい中、第6次瀬戸市総合計画評価委員会にご出席をいただきましたこと心から感謝を申し上げます。</p> <p>平成29年度からスタートいたしました第6次瀬戸市総合計画も残すところあと1年となりました。これまでの9年間、計画に基づき、各種政策を推進してまいりました。</p> <p>本日はこれまでの政策の進捗状況を確認いただくとともに、第6次瀬戸市総合計画の評価、昨年度から策定を進めております次期瀬戸市将来計画への反映をどのようにしていくのかを検討する重要な機会でございます。</p> <p>物価高騰や少子高齢化など、本市を取り巻く環境が変化する中で、これまで以上に柔軟で持続可能な行政運営が求められてまいります。こうした中、市民の皆様の暮らしをよりよいものにするため、委員の皆様のご指導、ご助言が不可欠でございます。</p> <p>本日、皆様からいただきますご意見をしっかりと受けとめて次期将来計画に反映してまいりたいと考えておりますので、どうぞ忌憚のないご意見をお聞かせいただきますよう、よろしくお願いいたします。</p>
事務局	市長は別の公務があり、ここで退席とさせていただきます。

	<p>それでは、第6次瀬戸市総合計画評価委員会について、また、事前に送付しました資料につきましてご説明をさせていただきます。次第の次に委員名簿がごございます。当評価委員会の構成員9名のうち1名に変更があるためご報告いたします。今年度より瀬戸信用金庫理事長の稲垣様にご参画をお願いしておりますので、どうぞよろしくお願いたします。</p>
稲垣委員	<p>稲垣です。どうぞよろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>続いて、「第6次瀬戸市総合計画評価委員会について」という資料をご覧ください。趣旨にありますとおり、瀬戸市の総合計画及び総合戦略の進行管理を目的に開催させていただきます。</p> <p>市長の挨拶にもありましたが、第6次瀬戸市総合計画は、来年度が最終年度となります。現在、次期将来計画の策定に着手しており、今回の評価委員会では、第6次瀬戸市総合計画の総括として、皆さまから幅広くご意見をいただき、次期将来計画策定に反映してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。</p> <p>それでは、ここからの進行を石川座長にお願いしたいと思ひます。</p>
石川座長	<p>それでは早速議題に移りたいと思ひます。</p> <p>事務局から、資料1に基づき、ご説明をいただきたいと思ひます。</p>
<p>2 第6次瀬戸市総合計画の計画期間における人口動態について</p>	
事務局	<p>(資料説明：資料1)</p>
石川座長	<p>それでは、資料1の人口増減について、皆さまからご意見をいただきたいと思ひます。何かご意見はいかがでしょうか。</p>
萱岡委員	<p>社会増減のグラフについて、令和6年以降、急激に社会減となっておりますが、何か要因はありますでしょうか。</p>
事務局	<p>社会減は毎年同程度で推移しておりますが、社会増が毎年減少しているため、結果として社会減となっております。推察になりますが、要因としては塩草地区の区画整理や北みずの坂などの宅地開発による人口増加が落ち着いたため、社会増が減少しているものと考えております。</p>
河村委員	<p>社会増減は、外国人・日本人の別以外に、年齢層などは分かりますか。</p>
事務局	<p>年代別・国籍別の推移についての資料について、現在お示しできる資料はございません。</p> <p>国籍を問わずということであれば、就職を迎える20代の転出が多く、子どもと30代の転入が多い傾向となっております。</p>
石川座長	<p>本日お示しできないデータについては、後日、分かる範囲で提供いただければと思ひます。</p>
南委員	<p>転入・転出の大きな要因は、戸建てを建てるか、あるいは空き家を活用するかという点だと思ひます。</p> <p>肌感覚として、新築でも中古住宅でも価格が高くなってきていると感じていますが、何か数値として示せるものはありますか。</p>
事務局	<p>資料2の都市像①の指標にもありますが、住宅地の平均価格は、総合計画策定時の平成28年度は55,000円ですが、最新値となる令和6年度には59,400円となり、土地の価格は上昇しているものと考えています。</p>
石川座長	<p>瀬戸市の地価については、近隣市町より比較的安価と言われておりますが、近年上昇しています。このこと自体は、地域の価値が高まっているという意味であり、市の活性化のパロメータと言えるので、人口と地価に着目するのは大事だと思ひます。南委員も中心市街地で地価の上昇を感じますか。</p>

南委員	<p>にじの丘学園の影響で地価が上昇したと感じています。また、石川座長がおっしゃるように、需給のバランスで人口が増えるタイミングに地価が上がるというのはあると思います。宅地造成時には転入が増え、中古住宅の価格なども上がっていますが、近年は転出が増えており、ギャップがある気がします。そのため、転入を考えている人にとっては、瀬戸市の住宅価格が高く見えてしまうのではないのでしょうか。</p>
石川座長	<p>地価の上昇は、需給のバランスで年のずれもあるかもしれないですね。他には何かありますでしょうか。</p>
稲垣委員	<p>資料1について、外国の方の転入が多いですが、こういった国籍の方が転入しているのか知りたいです。現在の円安で、賃金ベースでは日本の魅力が低下しており、その中でこういった方が転入しているのかを把握する必要があると思います。</p> <p>もう一点は、地価の話について、多少上がっていますが、愛知県全体でみると名古屋の中心からの利便性も高いのに非常に安いです。</p> <p>そんな中でも瀬戸への転入が少ないのは、何か原因があるのではないのでしょうか。その原因を考えながら、魅力の発信を考える必要があると思います。長くなりましたが、外国人の移動について分かれば教えてください。</p>
事務局	<p>国籍までは分かりませんが、外国の方が令和6年度1年間でどちらの地域から転入してきたかというデータはありますので、ご報告いたします。</p> <p>愛知県内の他市町村から396名、次にベトナムから195名、インドネシアから148名、ミャンマーから55名、ほか国内からの転入となります。</p> <p>また、参考までに令和2年度国勢調査では、瀬戸市に居住している外国人で一番多いのはブラジル人の873名、次に韓国・北朝鮮660名、以下フィリピン、ペルー、ベトナムの方となります。</p>
石川座長	<p>瀬戸市の中でも、地域差はあるかもしれませんが。</p> <p>菱野団地の県営住宅の外国人比率が非常に高く、棟によっては2割程度外国人が住んでいたりするので、そういった偏りもあるかもしれません。</p> <p>また、ベトナムの方が増えているという話がありましたが、数年前にこの評価委員会で学校やレストラン、工場ができたという話があったと思いますが、事務局いかがですか。</p>
事務局	<p>幡野町に中部国際学院ができて、また、ベトナム料理屋も新しくでき、転入が増えているのではと思います。</p> <p>補足になりますが、瀬戸市の国籍別人口を見ますと、国籍別ではブラジル、フィリピンの方が増えてきています。あとは、ベトナムや中国の方も大きく増加しておりますので、多国籍化の傾向が見られると考えております。</p>
南委員	<p>先ほどの話の続きで、少し気になったことがあります。</p> <p>土地が結構売れていると感じていて、中心市街地でもすぐ埋まっています。塩草地区や祖母懐小学校跡地、今後開発予定の中水野地区も人気があるという中で、これは結局、宅地造成をする、あるいは、今ある住宅を壊さないと、新しい人が引っ越してこないのではないのでしょうか。一方で、新築マンションは、採算面からなかなか建ちません。そんな中、どうすれば長期的に市外から転入してくるのか答えを出していく必要があると思います。</p> <p>そういった時に、転入してきた人が一軒家なのか、賃貸なのかというようなデータが大事だと思うが、ありますでしょうか。</p>
事務局	<p>本日お示しできるデータはないですが、後日、提供できるデータがあれば提</p>

	供させていただきます。
石川座長	<p>菱野団地の話になりますが、菱野団地の人口が減っており、ピークは2万人いましたが、現在は1万人を切っています。ただ、戸建ての分譲住宅地の人口は減っておらず、場合によっては世帯が増えているという地区もあるくらいで、空き家率も全国平均が13、14%くらいだと思うが、菱野団地の戸建ての空き家率は1%くらいです。一方で、なぜ菱野団地の人口が減っているかというと、県営住宅の空室率が30、40%で、老朽化した県営住宅が多くなっています。</p> <p>つまり、戸建てとマンションなどそれぞれの状況が違うということです。</p>
南委員	<p>それぞれの状況を把握しないと、解決策を間違えてしまうと思います。</p> <p>仮に戸建てを建てたい人がいて、土地が無いから建ててないとなると、市がいくら情報を発信しても意味がないと思いますし、あるいは、まずは賃貸で住んだ後、戸建てで住みたい人がいても、条件の良い賃貸がないため、仕方なく戸建てに住むということであれば、賃貸の需要はあるかもしれないし、採算が合わないから賃貸住宅を建てないということであれば、市の施策は人を呼び込むことではなく、賃貸を建てる側へのインセンティブが重要だと思います。</p>
石川座長	<p>とても大事な視点だと思います。</p> <p>仮に瀬戸市でアパートやマンションを探しても、瀬戸市にないので、長久手市や他の地域に住んでしまいます。すると、その周辺で戸建てを検討して瀬戸市にはなかなか来ないという流れがあるかと思います。20代後半だとか、そういう年代で適した住居が瀬戸にはないということは、確かに仮説としては十分あると思います。</p> <p>資料1は、人口がテーマですので大事な点だと思います。</p> <p>それでは次に移りたいと思います。事務局は資料の説明をお願いします。</p>
3 第6次瀬戸市総合計画及び第2期瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間の進行管理について	
(1) 「第6次瀬戸市総合計画」の進行管理について	
事務局	(資料説明：資料2)
(2) 「第2期瀬戸市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の進行管理について	
事務局	(資料説明：資料3)
石川座長	それでは資料2、3に基づき、皆さまから忌憚のないご意見をいただければと思います。
澤田委員	<p>まず、データの見方を教えていただきたいと思います。</p> <p>資料4、都市像2の子育てに関するアンケートは、子育て世代の母数なのか、市民全体の母数なのでしょう。子育て世代でないと答えられない項目もあると思います。</p> <p>また、⑪家族の暮らしやすさ実感度は、単身世帯や高齢者のみ世帯が世帯数として多いと思いますが、これも子育て世代に聞いているのか伺いたいです。</p>
事務局	こちらの指標については本年度行った市民アンケートの項目としております。全市民の方から無作為に抽出してご回答いただいているものになりますので子育て世代に限ったご質問ではありません。
澤田委員	そうすると目標値80というのは、元々、関わりのない人たちもおり、達成が難しいのではないのでしょうか。
事務局	この後の次第にも出てきますが、この指標の分析では、ある程度目標値に対して頭打ちになってしまう指標であったと考えております。

河村委員	資料2の市民アンケートについて、住みやすさは増えているが、住み続けたい意向が下がっている要因はありますか。
事務局	今年度、アンケート調査を行っており、その分析の中で考えられるものがありましたら、また後日共有させていただきたいと思います。
加藤委員	アンケートの因果関係についてですが、まちへの愛着についても、増加傾向にあり、河村委員がおっしゃるように、私もなぜ住み続けたい意向が減少しているのか疑問に感じます。 資料は単純な集計になっているので、この関係については、クロス集計などもっと深く掘り下げていただく必要があるかと思います。 瀬戸に住み続けたくないという人が増えれば、市の衰退につながりかねませんので、しっかり分析をして次期将来計画につなげてほしいと思います。
石川座長	ありがとうございます。やはりもう少し詳しい分析が必要ですが、愛着というのは基本的にずっと住んでいるほど湧いてくるというのがあります。 高齢化が進む社会の中では、若い人の愛着があまりないうえに、誇りもなかなか醸成されず、愛着は高いけど、誇りについては上がらないなど、そういう年代別の理由が大きいと思います。
稲垣委員	同じような話になりますが、例えば転出は20歳くらいが多く、そういった人からすると、瀬戸市は住み続けたいまちではないのではないのでしょうか。 逆に転入してくる理由が地価や固定資産税の安さだとすると、そういった方は住みやすいと思うかも知れません。あるいは、高齢者になって医療支援が手厚いから名古屋に移りたいという方がいるなど、アンケートの回答者によって全く違う話になります。 この3つのアンケート結果だけでなく、その内訳をちゃんと見ないとミスリードになるかも知れません。
南委員	住み続けたい意向が下がったといっても0.9%であり、統計上、そこまで有意な結果にはならないと思っていて、長期的に見たときに傾きが出ているのかを見た方がいいと思っています。 このデータについて、同様に名古屋市周辺の他市町村、長久手市、尾張旭市がどれぐらいこの住み続けたいと答える人の割合が高いのか、それに対する瀬戸市の比率で見た方が、瀬戸の現状がわかってくるので、他市町村との比較を見ていきたいと思いました。
事務局	色々ご意見いただきありがとうございます。 最初に河村委員からご質問いただいた住み続けたい意向について、年齢別、性別、居住圏域別のクロス集計を行っています。 例えば年齢別では、今の場所に住み続けたいという回答が、39歳以下では44.7%、60歳以上だと65.9%ということで20ポイント以上の差がついています。また、圏域別だと、一番高いところで中部圏域(祖母懐、陶原、長根連区)になってきますが、ここは住み続けたい意向が64.1%、これに対して一番低いところが東部圏域(古瀬戸、東明、品野、下品野連区)で44.1%となり、20ポイント近く差があります。 今回は令和7年度の調査結果であり、経年変化というご意見もいただきましたので、過去の結果もさかのぼり、次期将来計画に反映できる場所があれば、反映していきたいと思います。
林委員	以前も発言しましたが、指標名と使用するデータが伴っていないと思います。 例えば都市像3に障害者福祉の充実とありますが、データとしては障害福

	<p>社サービス等・障害児通所支援等事業所数となっています。事業所数があれば達成したことになり、充実していると思われがちですが、実際は、事業所に市外から来ている子もいれば、市内の子が市外に通っている場合もあり、わざわざ市外に行くのは、何か魅力を感じない部分もあるのかなと思います。</p> <p>高齢者の活躍という部分でも、65歳以上の方が働いている割合が上がっています。しかし、活躍というそれだけではないと思うので、指標名と使用するデータが一致してないと思います。</p>
石川座長	<p>ありがとうございます。指標のあり方は、定量的に見えるものは定量的に見る一方で、定性的な解釈も必要です。次期将来計画でも指標は設定されると思うので、参考にしていただければと思います。</p>
小坂委員	<p>資料2の都市像3⑭「開かれた市政が推進されていると思いますか」という数値が下がっており、数値的には「思っていない」が25.7%で4人に1人となります。</p> <p>今回の資料や色々な計画資料を見た時に、ある問題に対してどういう解決方法で、それにどういう予算を使うのかというのが一致していないと感じており、今回の予算大綱も読みましたが、これも柱が三つあるものの、予算にだいたいばらつきがあって、市民として納得してないことが数値に現れているのではないかと思います。予算の配分について、シンプルに伝わるよう、次期計画を策定する際は解決して欲しいと思いました。</p>
石川座長	<p>ありがとうございます。どういう予算で何に注力していくということは大事になるので、次期計画にもぜひ入れ込んでいただければと思います。</p>
小坂委員	<p>単純に予算が大きいと瀬戸市が本気というのは分かりますし、重点施策にある中で予算が少ないのはそういったメッセージになって伝わってしまうので、この辺り矛盾がないように策定した方が良いと思います。</p>
澤田委員	<p>私も林委員と似た話ですが、都市像3を見ると、高齢者のくくりの中に介護が必要な方の目標値がどこもないのかなと思っています。</p> <p>これはそれぞれの高齢者福祉計画や介護の計画にあるので、今回は入らない話なのか、障害の指標が一つしか入ってないよう何か兼ね合いがあって選ばれているのか教えていただけたらと思います。</p>
事務局	<p>今回、ここでお示ししているものは平成29年度に策定した際の指標になっており、中間見直しをしていないため、社会の変化に合っていないところもありますので、次期計画策定時には検討していきたいと思います。</p>
小坂委員	<p>次の計画という話がありますが、次も10年という期間なのでしょう。外部環境の変化が激しい時代になっており、長期間の計画だと、途中で修正が大変ではないでしょうか。介護の指標がいるのではないかという話もありましたが、フレキシブルに対応できない計画になりかねないという懸念があります。</p> <p>他の自治体でも短めに設定するというのは、今の流れだと思いますので、一つ意見として述べさせていただきます。</p>
事務局	<p>今年度、策定方針を公表しており、そこには将来像を示す基本構想については2040年を見据えて策定するということと、基本計画部分については、概ね4年間で策定していくという形にしていますので、社会の変化に合わせて反映できる計画期間を考えております。</p>
加藤委員	<p>立場上、自治会の話させていただきます。</p> <p>資料2の指標⑨地域の繋がりで自治会の加入率がありますが、目標値80</p>

	<p>というのは現状からすると非現実的だと思います。</p> <p>地域の活動・地域の繋がりという観点で言えば、単に加入率だけではなく、資料3の基本目標2にぎわい、基本目標3くらし、基本目標5じりつなど全て自治会活動に関連していると思います。また、基本目標4の下段に具体的な施策がありますが、健康的に暮らすことができるまちづくり、あるいは安心して暮らせるまちづくりにも、自治会活動は大きく寄与するものだと思います。</p> <p>今後、行政と自治会活動の関係というものも改めて評価をしていただける機会があればと思います。今、自治会活動は、市から活動補助金という形ですが、実態は市からの委託物の回覧や配布、イベントの案内が半分ぐらいあり、これは活動に対する助成ではなくて、自治体と行政との関係では、委託事業の関係であると考えております。そういう意味では、今後議論や見直しをしていく必要があるかと思えます。</p> <p>一方、先ほど申し上げたように目標値の実現に自治会活動は大きく寄与しており、外国の方々との共生など、大きな問題や課題も担っているため、自治会活動に対する評価や指標も別途あれば良いと思います。</p>
石川座長	<p>ありがとうございます。コミュニティを維持するために、自治会は色々な活動をされており、それがこれからの社会だと大事なところなので、この意見も次期将来計画の参考にしていただければと思います。</p>
林委員	<p>都市像2の⑤若い世代の住みやすさでは、社会減となっています。⑫若い世代の居住満足度で瀬戸市が住みやすいと回答している人が増えていますが、転出した方にアンケートや転出理由はわかりますか。</p>
事務局	<p>昨年まで転出の際に、市民課の方でアンケートを行っており、「瀬戸は住みやすかったですか」という質問に関しては、住みやすかったという回答が多くあります。</p> <p>転出される理由としましては、仕事の都合という方が非常に多かったです。子育て世帯の方たちを中心に実施しており、基本的には仕事や通勤、それから職場が近いということが多く、瀬戸が住みにくいというようなアンケートの結果は非常に少ない形ではあります。</p>
石川座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、資料の4、5について事務局より説明いたします。</p>
(4) 第6次瀬戸市総合計画の現時点における総括について	
4 都市像指標の現況値から見た評価について	
5 第6次瀬戸市総合計画の進行管理に係る課題について	
事務局	(資料説明：資料4、5)
石川座長	<p>ありがとうございます。色々な観点があると思いますが、ご意見、もしくはご質問をいただきたいと思えます。</p>
加藤委員	<p>やはり地域の繋がりのお話ですが、これを積み残し課題としてスライドさせるというのはいかがかなと思います。先ほども申し上げましたように、地域の繋がりには自治会活動と深い関係があり、それを評価できるような指標があると良いと思えます。</p> <p>自治会活動の定量化・数量化、イベントへの参加者あるいは様々な活動への参加者数などの指標があると分かりやすく、加入率だけだと自治会活動が活性化されない限りはどんどん下がっていくと思えます。例えば、高齢者の方々は、今の時期、退会される方が多いです。なぜかという、来年度の役員を決める時期で順番が回れば、その段階で辞めやすくなりますので、単に加入者だ</p>

	<p>けの問題ではないということをご理解いただきながら、指標を工夫していただければありがたいと思います。</p> <p>また、地域の繋がりについて自治会加入率だけが指標になりますと、加入率が下がると自治会活動があまり活発にしてないとか自治会そのものが活動していないかという誤解を受けることになりかねませんので、一生懸命努力してもなお加入率が下がっていくという現状をもう少し分析をしながら、次期将来計画に活かして欲しいと思います。</p>
石川座長	<p>ありがとうございます。瀬戸は元々、繋がりが深い地域だと思います。逆に長久手市みたいな新興住宅地の多いところは、自治会加入率が非常に低いという話もありますが、いずれにしても自治会は自治会で色々な活動をして、コミュニティを維持しようとして頑張っているのです、そのあたりを評価しつつ、どうあるべきかということが大事かと思います。</p>
加藤委員	<p>もう一つだけ話をしますが、新しい方が転入された地域の繋がりが薄いと思われる場合もありますが、例えば効範連区のやまて坂あるいは東山町は、新たに開発された地域ですが、この地域の加入率が90%以上となっています。つまりそこにキーマンがいるかどうか、活動が活発化しているかにかかっており、一概に新しい地域が低いとは言えないというところもあります。</p>
萱岡委員	<p>いつも思っているのが、範囲が広すぎて、ターゲットが漠然としている気がします。ゴールとしては、三つの指標という定性的なゴールと、人口を増やしていくという定量的なゴールだと思います。</p> <p>それに向けての繋がりが、指標とかの細かさでぼやけてしまっており、本当に集中して取り組む分野になってないので、ターゲットを明確にした方が進めやすく効果も出やすいのではないかと思います。</p>
石川座長	<p>ありがとうございます。何を指すかということが大事で、そのためには何を重点的に見なくちゃいけないかというところの繋がりですよね。そのあたりをわかりやすくするのが次期計画の課題だと思います。</p>
南委員	<p>一番大事なことは、それがちゃんと伝わるかだと思っていて、ここから基本構想として未来を描くと考えると、今一番問題だと思うのは、「住みたいまち誇れるまち新しい瀬戸」というキャッチコピーだと思っています。頭に残らないし、何を一番の強みにしていくか、分からないものだと思います。</p> <p>瀬戸市は結構稀な状況で、名古屋、豊田という二つの経済圏があって、そこで働く人がどこを選ぶかという視点では、瀬戸と比べて大体どこも財政的にいいと思うし、そこを総合点で勝つのはおそらく難しいと思っています。</p> <p>その中で、繋がりがあまるまちとするのか、自己実現できるまちとするのか、あるいは、工芸のまちとするのか、結局、まちづくりに参加している人でない限り、ちゃんと市としての方向性が伝わる、わかりやすい一言があることが大事だし、移住するときのきっかけになるかと思っています。</p>
林委員	<p>環境とか男女共同参画とか色々な委員会での意見というのは、こういう計画に反映されるのでしょうか。</p>
事務局	<p>今、計画策定を進めている庁内の検討会議には、様々な計画や委員会を所管している課の職員が参画しており、会議体での意見を取り入れながら進めております。また、令和8年度も、組織体・会議体で意見を伺いながら進めたいと思っています。</p>
澤田委員	<p>指標の話ですが、判断が難しいものが多く、例えば、後期高齢者が増えれば医療費は増えるとか、高齢者の活躍とか就業率とかは後期高齢者が増えたい</p>

	けば数値が下がるなど、読み方が難しく感じますが、目標の設定はどのようになされていますか。
事務局	<p>各委員から指標に関してご質問いただいておりますが、先ほど申しました通り、第6次総合計画策定時に設定した指標を10年間変えずにやっておりますので、今の時代に合っていないところがあると率直に感じています。</p> <p>併せまして、澤田委員がおっしゃった通り、市役所の政策で本当にその数値が向上できるか、難しいところもありますので、次期将来計画では指標の在り方なども検討していきたいと思っています。</p>
稲垣委員	<p>そもそも市民目線で見た時に何を求めているのか、限られた財源の中でやれること、やれないことがあり、そこを押さえないといけないと思います。</p> <p>例えば、福祉系というのは必要なものが多くありますし、住みやすいまちについても、なにをもって住みやすいのかも違う。また、何を削れるのかという目線が必要で、そういうものを分析するための資料4だと思っています。</p> <p>また、都市像3の①②健康と長寿の指標がありますが、医療費を何とかするならその指標が悪くなるなど、そういったバランスをどうとっていくかということ、次の計画でも重要だと思っています。</p>
石川座長	<p>そういう意味では、市民生活に関わるベーシックなところは全部押さえながら、総花的にはではなくて予算制約の中で重点配分とそうでないところというのが必要だと思います。</p>
稲垣委員	<p>例えば、産業振興の予算割合が多いというのがありましたが、産業立地などは5年10年スパンで見れば、その企業に就業する人や定住者も増えます。そこから税金などが入ってくるという好循環があるという目線で見れば非常に重要で、高齢化がどんどん進んでいるから介護や医療を手厚くすることばかり進めると、5年10年後のリターンはなくなり、市外から来る人がいなくなるかもしれません。</p> <p>やはりそのあたりのバランスが必要になってくるのかなと思います。</p>
石川座長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして次期将来計画の策定状況について説明をお願いいたします。</p>
(5) 次期瀬戸市将来計画の策定状況について	
6 次期瀬戸市将来計画の策定状況について	
7 令和7年度事業見直し等報告書	
事務局	(資料説明：資料6、7)
南委員	<p>資料7、とても大事な内容だなと思いました。瀬戸市は、公共施設が多く、その再編や今までやってきたものの中で減らしていくという内容ですけど、併せて瀬戸市の歳入と歳出の状況などがあるとより色々と見えていくのかなと思います。</p>
萱岡委員	<p>資料6は、瀬戸市民向けだけなのでしょうか。せっかく市民が語る瀬戸の魅力とあるので、広報せとだけだともったいない気がします。</p>
事務局	<p>貴重なご意見ありがとうございます。今は広報せとで出しておりますが、次期将来計画は関係人口の創出というのにも視野に入れておりますので、市外の方に発信できる方法も考えていきます。</p>
加藤委員	<p>予算と計画の関係について先ほど重点事業の話が他の委員からありましたが、計画というのは予算によって実効性が確保されると思います。</p> <p>正しく評価するためには、予算など上手く読み取れないといけません。この資料には「施策の体系が複雑で客観的でない」という記載もありますが、当初</p>

	<p>予算概要や決算に係る報告書などでも当該事業がどこにあるかもわからない、そこにいくら予算が充当されたのかわからない状況です。</p> <p>新しい総合計画では、進行管理を円滑にできるよう、わかりやすい資料を作ってください、体系も含め、予算がどの事業にどう充当されたか、わかりやすく市民にも示していただきたいと思います。</p>
小坂委員	<p>資料3の基本目標1しごとの部分の企業の稼ぐ力について、数値自体はどんどん相談者が来るので達成となりますが、実際は、最近AIが発達していて、これまでの4、5倍の量の相談を受けることができます。同じように過去から変わってない予算や指標でも中身をだいぶ変えられると思います。</p> <p>瀬戸市が掲げた指標について、自治会活動は犯罪を減らすのに大きく寄与していますが、そのつながりについては複雑だと思うし、色々なファクターがあって一つの目標が達成されることを整理するには、ITは必須だと個人的には思っております。</p> <p>そういう解決策が他の自治体であればぜひ採用して欲しいと思います。</p>
河村委員	<p>社会増減の話で、転職が理由という話がありました。私どもの会社でも残念ながら場所が瀬戸になく、他地域に工場を新設し、100人以上が転職しています。本当は瀬戸で働いてもらえる環境を作っていかなければいけないですが、場所がないとどうしようもないと思いますので、面積当たりの産業誘致面積のような指標を入れていただければ良いと感じています。</p>
石川座長	<p>ありがとうございます。市が持続可能かどうかというのは、本当に大事で、働く場があってその近くに人が住んで、また子どもが生まれてという循環があるはずで。</p> <p>そこをないがしろにしてしまうと、人口は減っていってしまうので、やっぱり産業はとても大事だと思いますね。他に何かございますか。</p>
澤田委員	<p>2040年を見据えた将来計画で、人口が減少し、高齢者が増えて現役世代も減っていく中で、仕事と介護の両立は現役世代にも関わる大きなテーマになるのではないかと考えています。</p> <p>介護が高齢者の問題だけじゃなくて、現役世代も含めた視野で見ていただけたらと思います。</p>
石川座長	<p>いただいた議事としては以上になります。それでは進行を事務局にお返しいたします。</p>
事務局	<p>石川先生、本日は円滑な会議の進行いただきありがとうございました。また委員の皆様も長時間にわたりまして活発なご意見をいただきましてありがとうございます。重ねてお礼申し上げます。</p> <p>第6次瀬戸市総合計画が始まって10年をもうすぐ迎えますが、今日の会議でいただいたご意見やこれまで委員として関わってくださった方のご意見も踏まえまして、今回お示しした資料の通り見直しを進めていきたいと思っております。</p> <p>本日のご議論の内容は、まずは議事録としてとりまとめ、委員の皆様にご確認をいただきたいと思います。</p>
閉会	
事務局	<p>それではこれもちまして、令和7年度第6次瀬戸市総合計画評価委員会を閉会させていただきます。本日はどうもありがとうございました。</p>

以上